

はじめに



部分矯正で広がる日常臨床の幅

日々の診療で補綴やインプラント、歯周病治療などの治療計画立案の際、歯列不正を是正することができるようになると、様々な場面で大変役立つ。

中でも部分矯正は、限られた部位の歯を移動するだけで日常臨床の幅が大きく広がる手段である。臨床の場ではちょっとした歯列不正に遭遇したり、補綴治療のために歯を挺出させたり、歯軸を整直させることが必要になることがある。その際、部分矯正で歯を動かすだけで、患者の要求に応え、補綴治療の質を上げ、清掃性の高い歯周環境を得ることができる。そのため多くの歯科医師が少しずつ部分矯正を臨床に取り入れているのではないだろうか。

しかし、部分矯正は「矯正」という専門分野だけに知識と経験不足で戸惑うことも多く、必要な器材などもわかりづらい。また、治療の落とし穴への恐怖感から導入を躊躇される慎重な読者も多いと思われる。矯正専門医との連携は理想的な方法だが、残念ながら現時点では歯周病や補綴のコンセンサスを矯正医との間で得ることは難しく、部分矯正を気持ちよく受け入れてくれる専門医が少ないのが現状ではないだろうか。

そこで、一般開業医でも自らのコンセプトに沿って部分矯正を導入し、歯周病、補綴、インプラントと同様、診療の質をあげていくことをお勧めしたい。複雑な咬合再構成のような治療においても、部分矯正治療のオプションを手に入れると予知性を高め、長期的に安定した予後を得る治療計画を立てることができるであろう。そしてそれが最終的に患者、歯科医師双方に恩恵をもたらすことになる。

本書では、日常臨床に導入しやすい部分矯正の方法や必要な器材、材料、その診断、また、危険な落とし穴などについてまとめた。日常臨床で遭遇する症例にまつわる様々な問題の解決の手引きとなれば幸いである。

2019年5月

米澤大地